

グローバル人材育成のファースト・ステップ マレーシア短期研修の事例

橋本智

徳島大学高等教育研究センター学修支援部門国際教育推進班

1. 徳島大学の海外留学の現状

大学のグローバル化は急務となっており、大学の評価に大きく影響を与えるものである。例えば、「THE 世界大学ランキング日本版」(Times Higher Education、ベネッセコーポレーション)のデータ項目には、「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」と並んで「国際性」という項目があり、さらに「外国人学生比率」「日本人学生の留学比率」「外国語で行われている講座の比率」などが記載されている。高校生や海外からの留学生、研究者が進学・研究する大学を選ぶ際に与える、このようなランキングによる評価の影響は小さくないだろう。徳島大学は上記の主要4項目のうち、「国際性」がかなり低くなっており、特に「日本人学生の留学比率」が他大学と比べて低い。

徳島大学は大学のグローバル化のための様々な施策を実施している。本学学生の海外派遣(海外留学)に関しても、第3期中期目標の中で最終年度(2021年度)に本学学生の海外留学者数を350人に定め、各部局が海外留学プログラムなどの充実を図っている。

現在、徳島大学の学生の海外留学者数は2016年度146人、2018年度206人と着実に増加しているものの、第3期中期目標最終年度350人の達成には困難が予想される。現在の海外留学プログラムに加えて、新しい形態の留学の開発や既存プログラムの改善や工夫、海外留学への関心向上のための活動、大学からの経済的サポート、教職員の海外留学に対する意識改革、さらには大学全体として海外留学しやすい環境の整備(例えば、 Semester制度の導入や長期海外留学による留年への対応など)も考慮していく必要があり、いずれの施策も時間をかけて行なっていく余裕はあまりない。

2. 日本人学生の海外留学

日本人学生の海外留学に関して、太田(2014)は現在の日本自体が「内向き、後ろ向き、下向きになっており、それがガラパゴス化などの社会現象となって表れ」、日本人学生が海外に出ていかない状況を作っていると論じている。実際、政府による日本人の海外留学に対する奨学金は増加していても、留学者数は大きく減少している(文部科学省2019)。経済的な事情、「コンフォート・

ゾーン」と呼ばれる便利で居心地の良い日本社会、就活への影響など、海外留学者の増加を阻害する要因は多くあるものの、グローバル化していく世界、ビジネス社会の中で生きていくための「グローバル人材」はどうしても必要であり、このような人物を育成するのが大学の役割でもある。また、グローバル化をすすめる大学が今後国内、国外から人を引き寄せることになる。このような観点からも、徳島大学の「グローバル化」は必要不可欠である。

3. 「ファースト・ステップ」の意味

徳島大学として本学学生の海外留学者数を増加させ、グローバル人材を育成するためにできることの一つは、これまで海外に行ったことがない、留学したことがない、でも「ちょっと試してみたい」という学生にアプローチし、彼らに海外を体験させることである。もともと海外、留学に関心のある学生は自分から情報をとりにいき、行動を起こすことができるが、そのような経験のない学生にとって、短期ではあっても海外に「留学する」ということは非常にハードルが高いと考えられ、そう考える学生は多いはずである。就職した後に英語を使ったり、外国人と接したりする機会があることは分かっている、自ら留学を準備し実際に行くには勇気がいる。そのような学生のために、新たな海外留学プログラムを開発した。

海外留学というと1ヶ月以上であったり、費用も高額であったりする場合が多く、実際に徳島大学高等教育センターで実施している「短期語学留学」プログラムもそのようなものである。それで2019年度、海外や留学に興味があってもそのようなプログラムに参加しない、もしかすると海外留学自体にも興味がない学生にターゲットを絞り、「超短期」「低額」「安心」といったコンセプトをもとに、これまで海外旅行、また海外留学の経験のない学生に対して、「ファースト・ステップ」となる海外留学プログラムを開発した。

4. プログラムの概要

2019年8月24日(土)から9月2日(月)までの日程で、「Study Abroad First Step Program in Malaysia, 2019」を実施した。留学先はマレーシア・マラッカにあるマレーシアマラッカ技術

大学 (Universiti Teknikal Malaysia Melaka 以降、UTeM) である。「ファースト・ステップ」の海外留学プログラムであるため、基本的には学部1年生を対象に募集を行い、学部1年生69人、2年生3人が参加した。プログラムの目標は次の通りである。①異文化を知り、自分の考え方や価値観、視野を広げよう。世界に目を向けよう。②英語を身につけ、実際に使ってみよう。③マレーシアの文化を体験し、日本の文化・自分自身の文化と同じところ、違うところを観察し、多様な社会・人間関係の中で生きる力をつけよう。④マレーシアの学生、徳大の参加学生と友だちになり、コミュニケーション能力を伸ばそう。プログラムの日程や注意事項、持参するもの、お金に関することなどの説明のため、40分程度の事前指導を3回行なった。加えて、旅行保険会社による危機管理説明会、「留学のための英語」クラス2回(2グループに分けて実施)に必須として参加してもらった。

UTeM側からは計22人の学生が参加した。本学学生もUTeMの学生も、UTeMキャンパス内にある寮に滞在し、朝食から夕食までの全ての活動と一緒に参加した。また、「安心」「安全」のコンセプトに沿って、本学教員2人(1人はプログラム期間中ずっと、1人は前半のみ)と添乗員2人(旅行会社派遣)が引率を行い、様々なサポートを行なった。UTeM側からはプログラム責任者、サポートの教員、英語教員など非常に大勢の教職員の参加、協力があつた。

週中は、午前中4時間程度、教室での英語学習を行い、午後、学外活動を行なった。英語学習では2つのグループに分かれ、UTeMの英語教員がUTeMの学生と一緒に、様々な形の英語教育を行なった。教科書を使用するのではなく、ネットからの情報を用いて活動を行ったり、課題を与えて動画や写真をとり、インスタグラムにアップロードして発表したりするなど、参加学生を飽きさせない工夫が見られた。また、午後の活動は街に出て、実際に英語を使ってみる良い機会となった。例えば、アスレチック体験では命綱をしっかりとロープに留める必要があるが、それを現地の人は英語で説明するので、よく聞いて理解しなければならない。博物館見学ではUTeMの学生の説明を聞き取る、わからないことは質問する、といったことが実体験を伴って英語で行われた。学外活動では、上記のアスレチック体験や博物館見学、現地レストランでの食事、ナイトマーケットでの買い物、マラッカ(世界遺産の街)の散策などがあり、いずれもUTeMの学生と一緒に行われ、英語体験と異文化体験ができた。

5. 成果

終了後すぐにフィードバックを依頼し、97%の

学生から回答を得た。プログラムに対する評価は平均4.59(5段階評価)と高く、参加者から高評価を得た。特質すべき点は、「今後さらに長い英語の留学をしたいと思いますか」という質問に、89%の学生が4あるいは5をつけ、平均4.43(5段階評価)であったことである。自由記述にも、「何か話そうと思っても、すぐに単語が出てこなかったもので、留学前に使いそうな英語を勉強しておくべきだった」「本気で英語を話せるようになりたいと思った。日常会話だけでなく勉強面の深い話を聞いてみたいので、改めて会話勉強をし直したい」「英語学習に対するモチベーションが上がり、もっとたくさんの人とスムーズに話したいと思うようになった」といった記述があり、「ファースト・ステップ」として参加したプログラムを通して、英語学習や長期留学への関心や意欲が高まったことがわかり、本プログラムの目的が達成できたと思われる。

6. 今後の課題

本プログラムの実施にあたり、様々な課題が残った。予定通りに活動ができない、現地教職員や学生とのコミュニケーションが不十分である、といった細かい点から、英語授業の内容の効果性、72人という大勢の学生を1カ所に派遣することの意味、ファースト・ステップとはいえ「英語研修」プログラムとして考えた場合の英語能力の向上の有無の検証など、今後検討すべき点も多い。また、今回のプログラムの改善に加えて、徳島大学のグローバル化に向けて、さらなる海外留学プログラムの開発も求められている。今後とも、大学として、またグローバル化推進の役割を持つ高等教育研究センターとして、どのような事業・活動ができるのかを検討していきたい。

参考資料

- 太田浩「日本人学生の内向き思考に関する一考察—既存のデータによる国際思考性再考—」ウェブマガジン「留学交流」2014年7月号 Vol.40 (最終閲覧日2019年11月1日)
https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kou-ryu/2014/_icsFiles/afieldfile/2015/11/18/201407otahiroshi.pdf
- 文部科学省「『外国人留学生在籍状況調査』及び『日本人の海外留学者数』等について」(最終閲覧日2019年11月1日)
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/_icsFiles/afieldfile/2019/01/18/1412692_1.pdf
- THE世界大学ランキング日本版(最終閲覧日2019年11月1日)
<https://japanuniversityrankings.jp/rankings>